



令和5年度 一般会計決算(速報値)

実質収支は74億4400万円

昨年度の横浜市一般会計決算の概要が取りまとめられ、速報値として発表されました。歳入決算額から歳出決算額を差し引いた収支は74億4400万円となっています。決算については9月に開会の第3回市会定例会で審査が始まりますが、今号では、その概要についてご報告します。

決算額などの前年度比較

	R5年度	前年度比増減	
歳入決算額	1兆9567億6500万円	▲1247億6600万円	※市税収入は、8868億400万円 (前年度比190億2700万円増) となり、2年連続の増収で過去 最高額を更新しました。
歳出決算額	1兆9358億7900万円	▲1182億3400万円	
収支	208億8600万円	▲65億3200万円	
翌年度繰越	134億4300万円	12億8600円	
実質収支	74億4400万円	▲78億1900万円	

借入金残高

	R4	R5	R6(見込)	R7(見込)
一般会計借入金残高	3兆1142億円	3兆386億円	2兆9738億円	2兆9000億円
市民一人当たり残高	83万円	81万円	79万円程度	77万円程度

※令和7年度末残高3兆100億円以下を目標に債務管理を行っていきます。

主な事業の決算状況 中期計画2022~2025の基本戦略テーマ別

—子育て世代への直接支援—

- ◆小児医療費助成の拡充《137億900万円》 中学3年生までを対象に医療費の一部助成、所得制限及び一部負担金の撤廃等
- ◆保育・幼児教育の受入枠の確保《1675億5100万円》 保育所等の整備などで1000人超の受入枠確保や一時保育の拡充等
- ◆放課後施策の充実《116億8900万円》 放課後キッズクラブ等でのニーズ調査や医療的ケア児受入れ支援の拡充等
- ◆子育て・教育DX《114億6200万円》 子育て応援アプリの開発やビッグデータの活用に向けた学習支援システムの構築等

—コミュニティ・生活環境づくり—

- ◆データを活用した通学路の交通安全対策《12億8100万円》 交通安全施設の整備と補修による交通安全対策の実施等
- ◆地域療育センターの運営《38億100万円》 療育センターによる初期支援の充実や保育所等への巡回訪問の拡充等
- ◆認知症施策の推進《2億9600万円》 物忘れ検診の対象年齢拡大やチームオレンジのモデル実施個所数の拡大等

—生産年齢人口流入による経済活性化—

- ◆地域交通の維持・充実《1億8600万円》 持続可能な地域の総合的な移動サービスの検討等
- ◆スポーツ・文化の融合による新しい賑わいの創出 国際スポーツ大会開催や大規模集客イベントを活用した回遊促進等

—まちの魅力・ブランド力向上—

- ◆国際園芸博覧会の開催に向けた取組《6億7300万円》 様々な機会をとらえた広報PRの充実による機運醸成等
- ◆安全・安心で快適な公園整備《142億2000万円》 安全で快適に利用できる遊具等への改修・更新等

—都市の持続可能性—

- ◆ゼロカーボンヨコハマの実現《50億2700万円》 省エネ家電購入促進事業、自治会町内会館の脱炭素化事業の取組等
- ◆風水害対策の推進《186億5700万円》 雨水幹線の整備、流域治水の基盤となる河川改修や河川等の土砂掘削等
- ◆まちの防災力向上、自助・共助の推進《34億8300万円》 密集市街地における地震火災対策計画の推進等